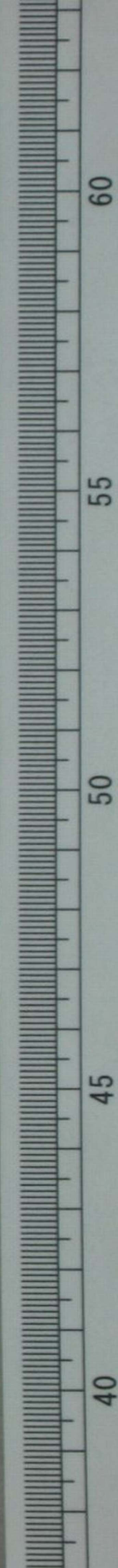




鬼おり
み

特 別
14
3157
41(3上)



白文大音

風

三
書
五



天
正

14
3157
41
(3)

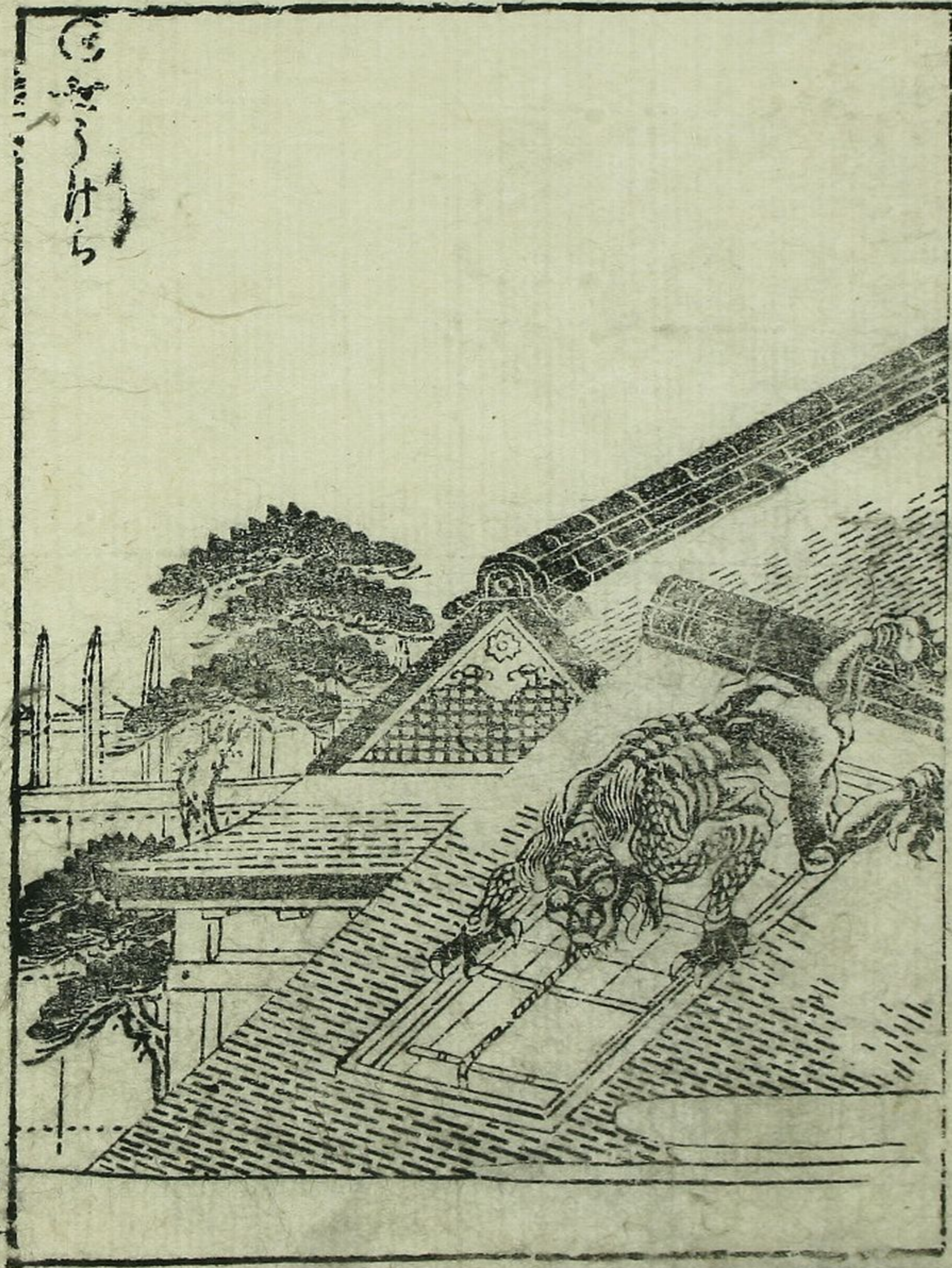
中
山
公
館
藏
書



○見哉こころ

○又あー
 ○ひやうま
 ○おとらじ
 ○ぬきせ
 ○ぐいせ
 ○喜おき
 ○ぬいつ
 ○うまん

○せうけら
 ○まいら
 ○ぬき佛
 ○ぬきりひまん
 ○おくら
 ○赤ー
 ○牛か







○
ねれとんち
雪女



雪女

○元貞寺

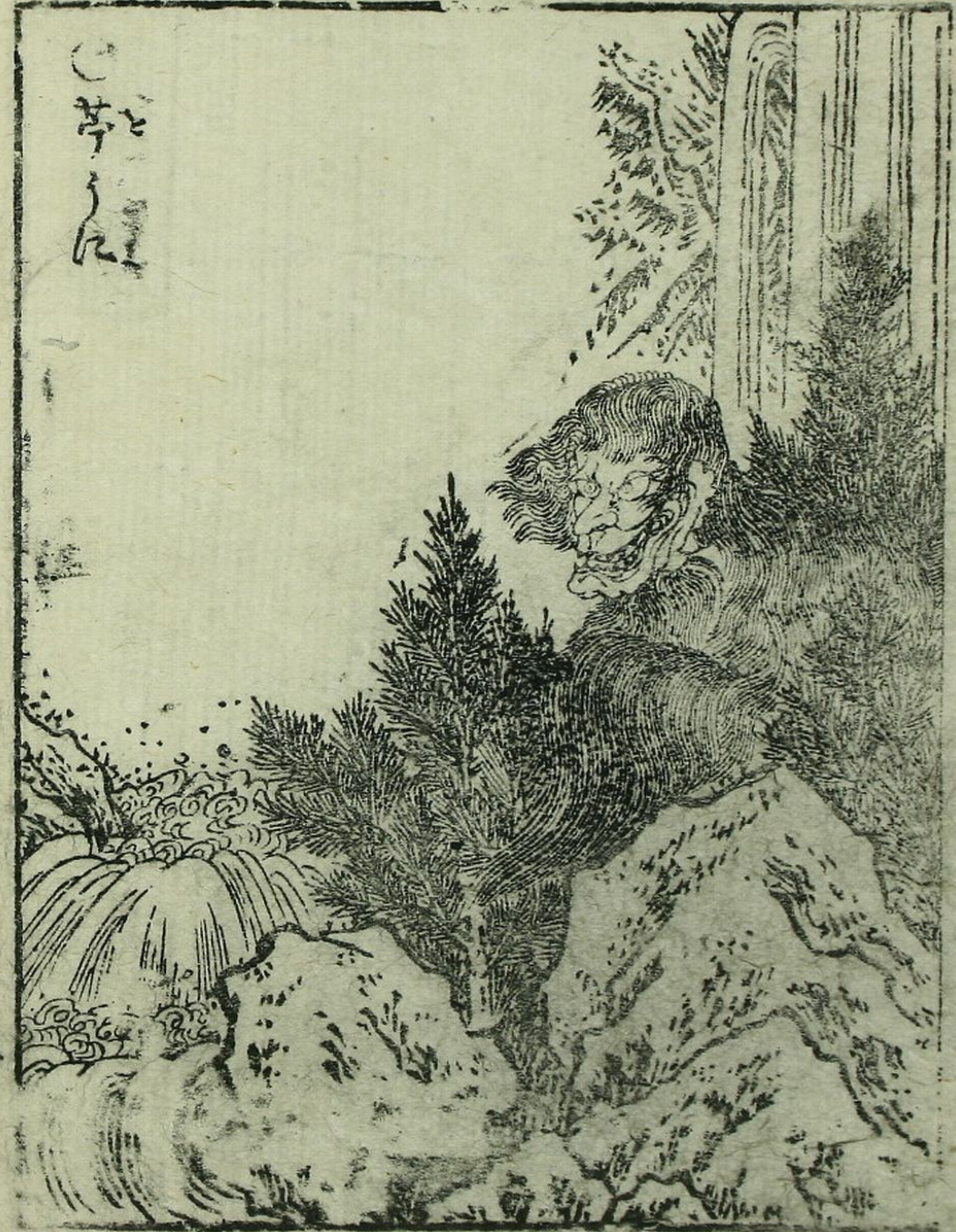


○ちんじん





○あかぢり
青坊主



○あかぢり
青坊主



かきくさく



○あし
赤舌



〇
う
え

〇
牛
鬼



下
七
七

詩も人心に物も感へく聲を發
しるゝと云はるゝ毎声の詩は
や和歌あるとて聲ふるゝみあは
く子よりく情をたこゝ感を催す
と神をも詠みし山海經吾朝
元信の百鬼夜行の事と予これ小
學子くはるゝ形くも帝筆紙汚る

下ノ

と起し書林伊集需る小類あると
心なうかたくも桜まよりくはるゝぬ
をしり了れ童蒙み弄るとりぬん
きのとみ末乃秋菊月於月窗
下石燕自跋



鳥山石菴書房

校合門人

子興
月沙

回圖百鬼夜行後編 近刻

彫工 町田助右衛門

安永五^{丙申}春

文化二乙丑年求

勢州洞津書林

長野屋勘吉

